

2025年3月期第2四半期 決算説明資料

Fiscal Year Ending March, 2025
2Q Financial Results

2024年11月8日
株式会社エフテック
証券コード：7212



「エフテック」で検索
<https://www.ftech.co.jp>

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

連結決算概要（前年同期比）

（単位：百万円）

	2024年3月期 2Q実績		2025年3月期 2Q実績		増減	
売上高	139,303	100.0%	145,810	100.0%	6,506	4.7%
営業利益	▲1,290	▲0.9%	▲1,430	▲1.0%	▲139	—
経常利益	▲915	▲0.7%	▲2,965	▲2.0%	▲2,049	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲516	▲0.4%	▲4,860	▲3.3%	▲4,343	—
1株利益(円)	▲27.78	—	▲261.75	—	▲233.97	—

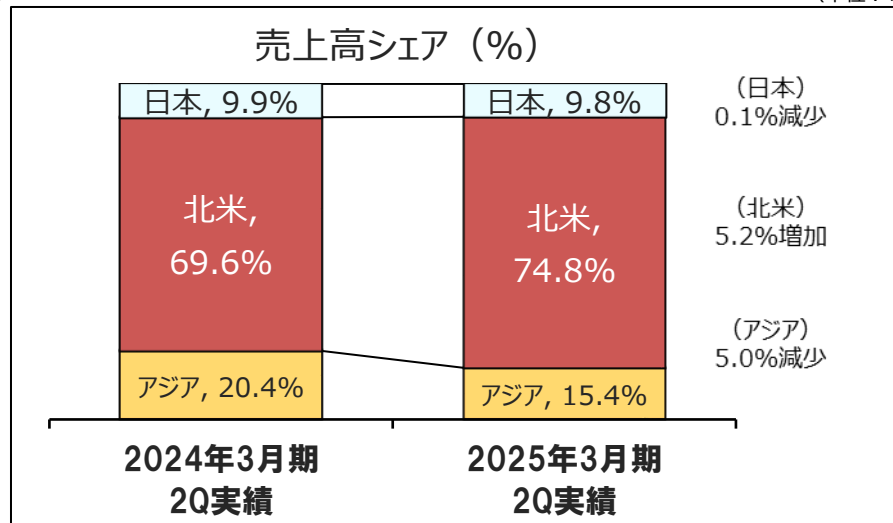
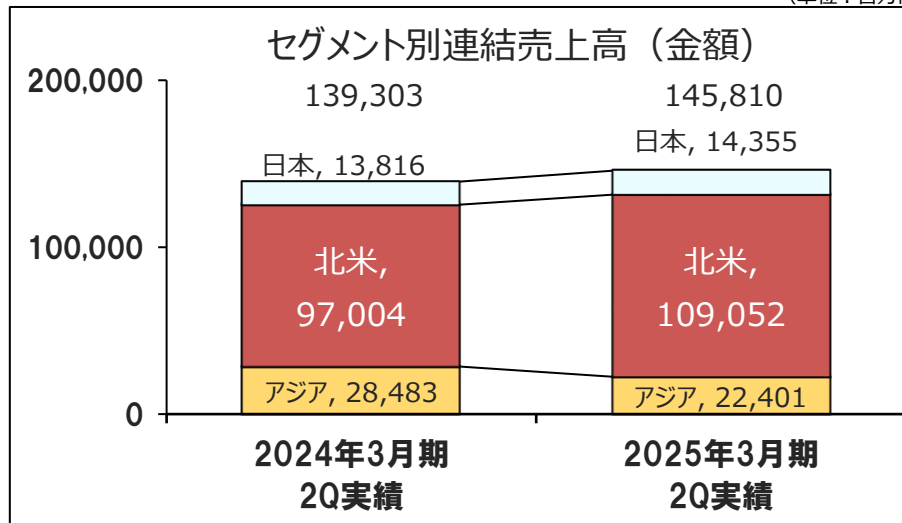
	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	増減
1 US\$	142.61円	152.50円	9.89円
1 CAN\$	105.93円	111.65円	5.72円
1 人民元	19.55円	21.26円	1.71円

円安効果により増収、営業利益以降は赤字が膨らむ

連結売上高（前年同期比）

(単位：百万円)

(単位：%)



連結売上高増減

	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q	増減	増減率	為替影響	実質増減	増減率
日本	13,816	14,355	539	3.9%	—	539	3.9%
北米	97,004	109,052	12,048	12.4%	7,551	4,497	4.6%
アジア	28,483	22,401	▲6,082	▲21.3%	1,584	▲7,665	▲26.9%
連結	139,303	145,810	6,506	4.7%	9,135	▲2,629	▲1.9%

日本、北米で増収、アジアは中国地域減産の影響により大幅減収

セグメント別営業利益（前年同期比）

（単位：百万円）

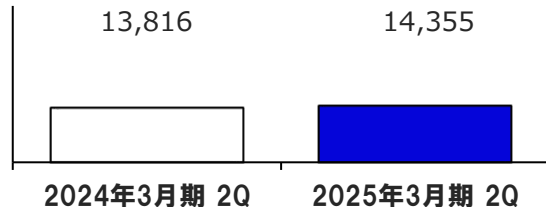
	金額			
	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	増減	増減率(%)
日本	372	▲360	▲732	▲196.8%
北米	▲1,486	▲339	1,147	77.2%
アジア	▲173	▲780	▲607	▲350.9%
合計	▲1,287	▲1,480	▲193	—
調整	▲3	50	53	1766.7%
連結	▲1,290	▲1,430	▲139	▲10.8%

北米で利益改善したものの、日本、アジアで減益

セグメント別連結業績（日本）

（単位：百万円）

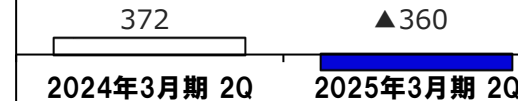
売上高



増減額	539
増減率	3.9%
為替影響	-
実質増減	539
実質増減率	3.9%

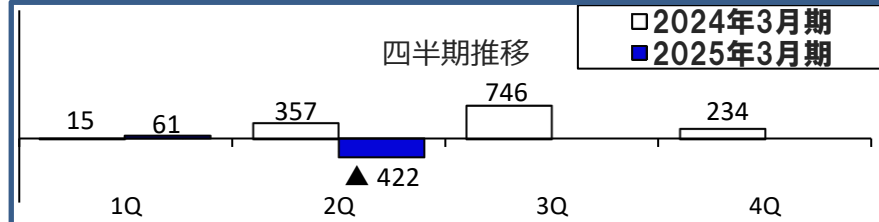
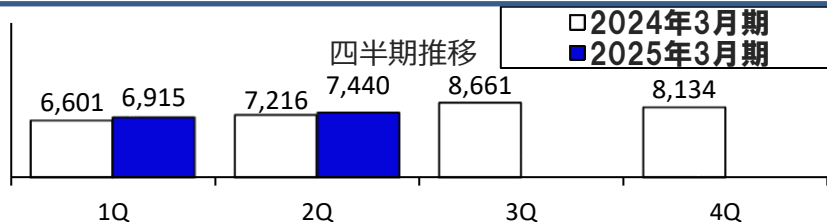
増減理由		
1	製品売上増加（HM+705、他+734）	1,439
2	商品売上増加（Gr向け金型設備売上）	972
3	技術収入売上減少（ロイヤリティ、開発費、他）	▲261
4	国内子会社売上減少	▲171
5	内部消去の増加	▲1,440
合計		539

営業利益



増減額	▲732
増減率	▲196.8%
為替影響	-
実質増減	▲732
実質増減率	▲196.8%

増減理由		
1	製品売上増加による増益	61
2	商品売上増加による増益	181
3	技術収入売上減少による減益	▲298
4	国内子会社売上減少による減益	▲244
5	販管費増加	▲432
合計		▲732

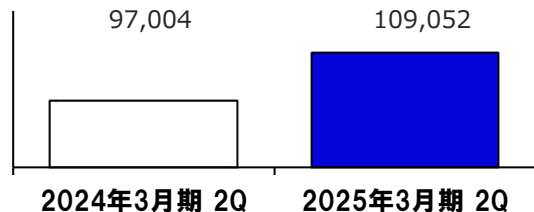


海外Gr向けロイヤリティ減少及び販管費増加により減益

セグメント別連結業績 (北米)

(単位: 百万円)

売上高

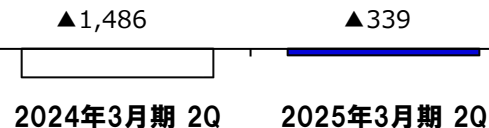


増減額	12,048
増減率	12.4%
為替影響	7,551
実質増減	4,497
実質増減率	4.6%

増減理由

1	製品/商品売上増加(HM +7,647、他 ▲3,150)	4,497
2	為替換算影響	7,551
合計		12,048

営業利益

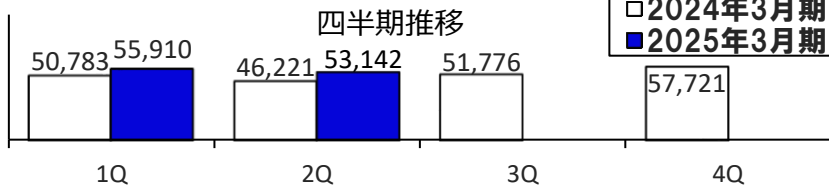


増減額	1,147
増減率	77.2%
為替影響	89
実質増減	1,057
実質増減率	71.2%

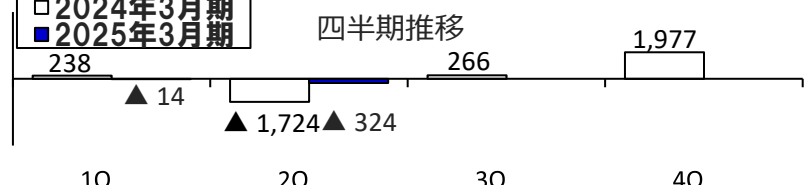
増減理由

1	製品/商品増加による増益	685
2	労務費改善	373
3	為替換算影響	89
合計		1,147

四半期推移



四半期推移

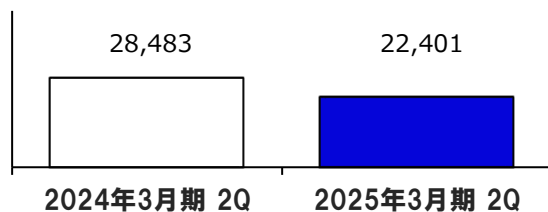


ホンダ向けの売上増加と労務費改善の効果で増収増益

セグメント別連結業績 (アジア)

(単位: 百万円)

売上高

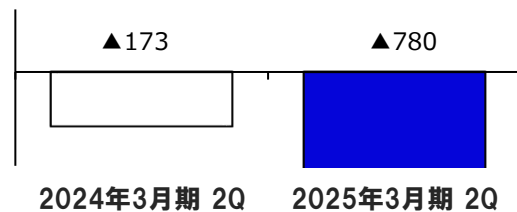


増減額	▲6,082
増減率	▲21.3%
為替影響	1,584
実質増減	▲7,665
実質増減率	▲26.9%

増減理由

1	(中国) 製品売上減少	▲6,183
2	(ア大) 製品売上減少	▲1,483
3	為替換算影響	1,584
合計		▲6,082

営業利益

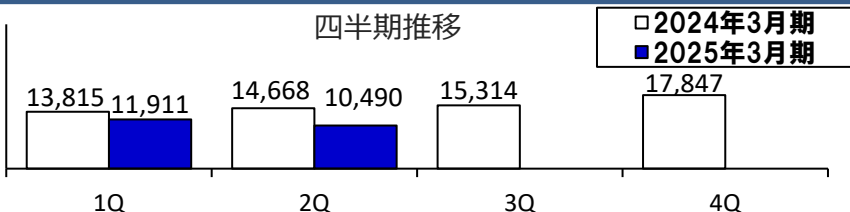


増減額	▲607
増減率	▲350.9%
為替影響	▲73
実質増減	▲534
実質増減率	▲308.2%

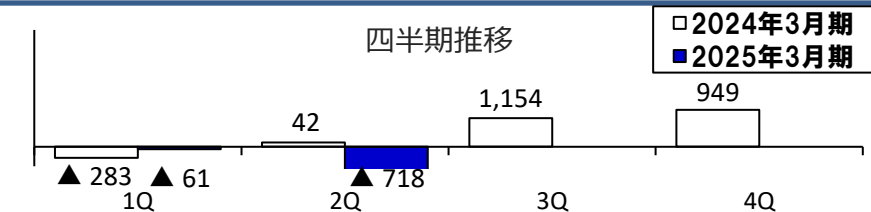
増減理由

1	(中国) 製品売上減少による減益	▲494
2	(ア大) 製品売上減少による減益	▲40
3	為替換算影響	▲73
合計		▲607

四半期推移



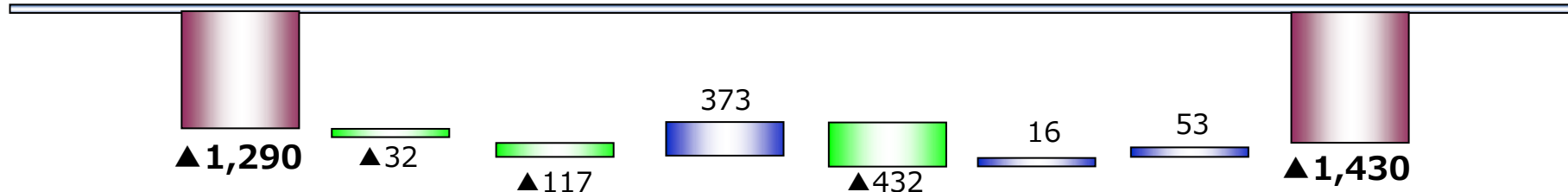
四半期推移



中国地域及びタイにおいてホンダ向け減産により減収減益

セグメント別営業利益（2025年3月期2Q実績）

(単位：百万円)



	2024年 3月期 2Q実績	製品売上 影響	商品 技術収入売上 影響	労務費改善	販管費 増加	為替影響	連結調整	2025年 3月期 2Q実績	増減
日本	372	▲183	▲117		▲432			▲360	▲732
北米	▲1,486	685		373		89		▲339	1,147
アジア	▲173	▲534				▲73		▲780	▲607
調整	▲3						53	50	53
連結	▲1,290	▲32	▲117	373	▲432	16	53	▲1,430	▲139

1 決算概要

Financial Summary

2 事業状況

Business Status

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- **課題拠点へのエフテック一体サポート展開**
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

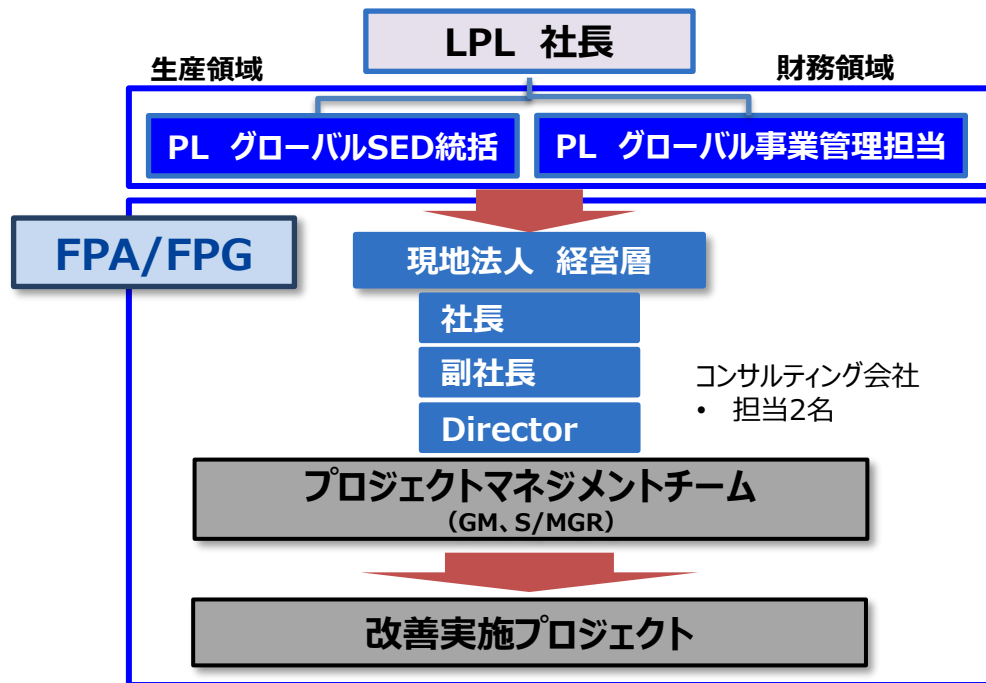
- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

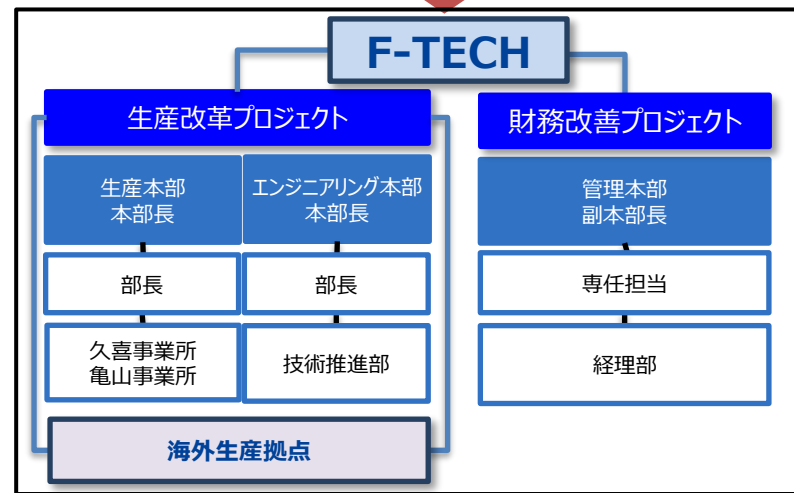
モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

- エフテック役員2名がプロジェクトリーダーとなり、本社機能部門との連携を強化
- **2024年度中にFPA/FPG両拠点の製造・間接領域の改善施策を完遂する**
- 改善遅れ発生時は、エフテック本社と子会社のエキスパートを増強し、挽回を図る
- 2025年度期初から改善効果を積み上げ、通期目標の達成に全力を尽くす

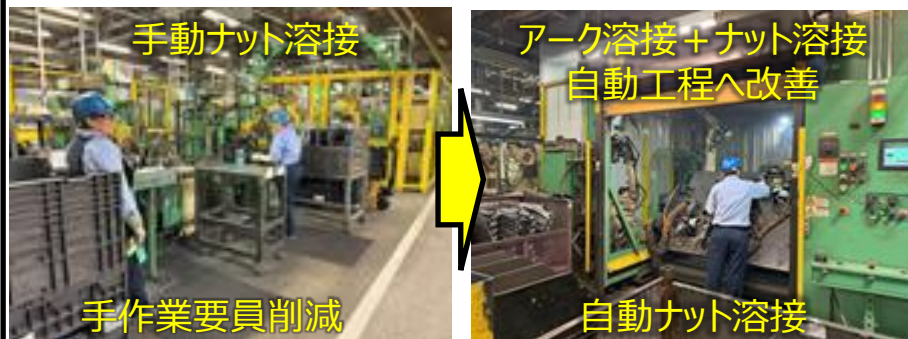


※LPL：全体を指揮するラージ・プロジェクト・リーダーの意。
PL：プロジェクト・リーダーの略。



製造領域の改善施策例 (FPA)

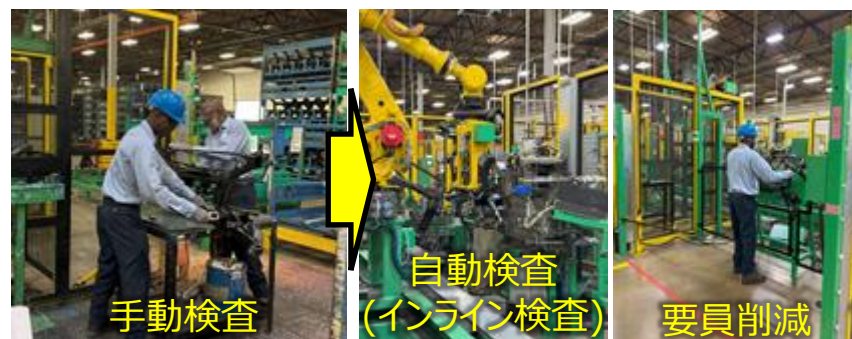
① ナット溶接の自動化 (5人/日削減)



定置スポット機での手動ナット溶接から、アーク溶接
工程内の搬送ロボットを活用した自動溶接へ変更し、
要員を削減

(9月～適用開始)

② リアサブフレーム検査工程の自動化 (3人/日削減)



手作業での全数目視検査からQA機による
自動検査機を導入し、検査要員を削減

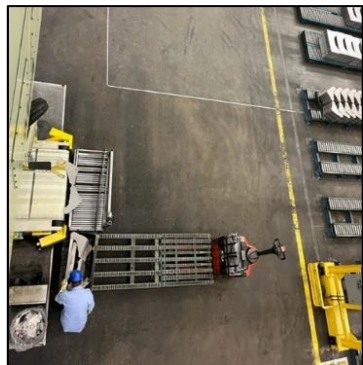
(9月～適用開始)

現地マネージメント層のオーナーシップを高め、自律的な取り組みを実行中

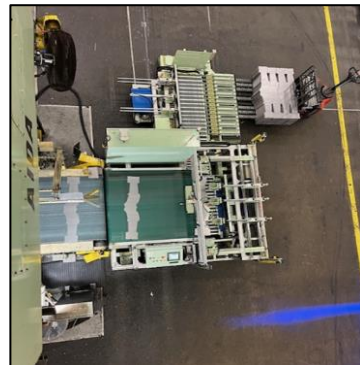
製造領域の改善施策例 (FPG)

※ブランク材：コイルをプレス機で打ち抜いたシート状の鉄板

③プレス材料自動収納 (0.5人/シフト工数削減)



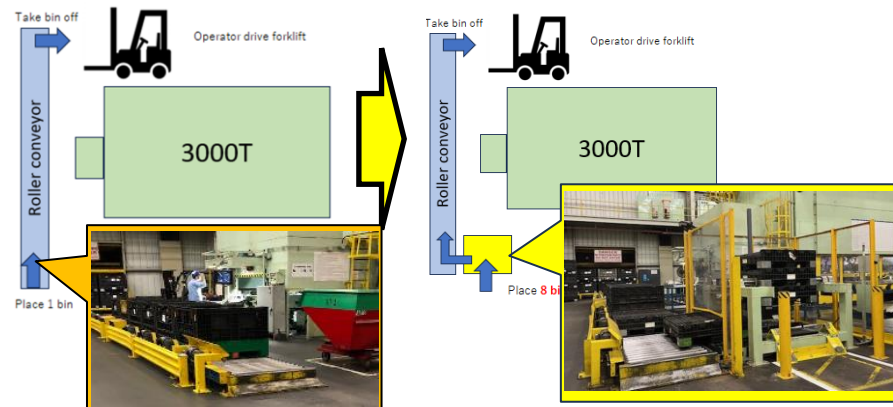
ブランク材手動収納



ブランク材自動収納

ブランク材の収納を自動化し、作業工数を削減
(7月～適用開始)

④プレス台車自動供給化 (0.5人/シフト工数削減)



1台車毎の入れ替え作業

8台車を一括セット
順次自動供給

プレス部品を投入する台車の供給を自動化し、
作業工数を削減 (8月～適用開始)

エフテック本社の生産技術ノウハウを活かし、大型プレス機の手動作業工数を削減

EVへのシフトが急加速

BYDを筆頭に中国資本が台頭

中国経済の低迷も重なり

日欧米系自動車メーカーの販売不振

ホンダのアナウンスメント ※8月時点

「中国におけるエンジン車生産能力を50万台減らす計画を今期中に実行予定」

※ホンダの今期末の中国地域における生産体制は、エンジン車100万台、NEV20万台

現状を踏まえた今後の展開

**主要得意先生産減に合わせた
構造・体質改革を実施**

【24年度下半期以降の施策】

- ・要員数の適正化
- ・生産ラインの集約
- ・プレス部品内製化
- ・物流改善
- ・経費削減の徹底
- ・ラインレイアウト変更
- ・新規顧客の開拓

得意先の生産動向に合わせ、“要員数の適正化”をはじめ各種施策を推進中

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- **競争優位性の強化による収益向上**
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

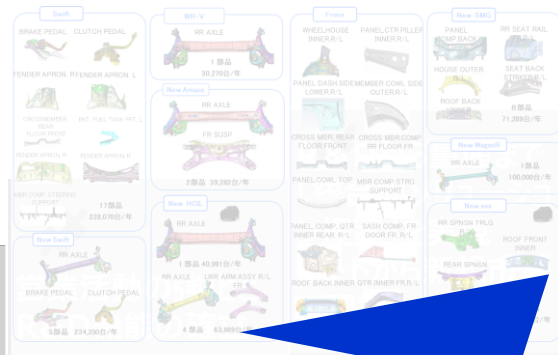


VEEGEE社との合併企業
VGAC

VGAC : VEE GEE Auto Components Private Limited

**新規受注 2社9車種91部品
+ 70億円超※1の売上増加見込**
2025年度～2026年度にかけて
順次量産を開始

※1:1インドルピー-1.65円で算出



2014-2017
VG社と技術
援助契約締結
SMGにパダル
供給開始

2020-2022
VG社と合併企
業を設立
エキスパート2
社に開始
SMGにリアア
クスループ供給
開始

2022
住友商事(株)の
ISSの事業承継
6月～エフテック
グループ

2023
高効率、高品質
シャーシ製品を生産
⇒ SMGに供給
(40万台/年)

2025
能力拡充完了
SMGへの供給拡大
年間150万台予定

潜在成長力ある
インドへリソース投入

ISSの子会社化により、
22年度連結業績
売上高 +40億円
営業利益 +2億円

SMG : Suzuki Motor Gujarat

ISS : India Steel Summit Private Limited

新規受注の増加により、事業拡大、連結業績利益に貢献

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

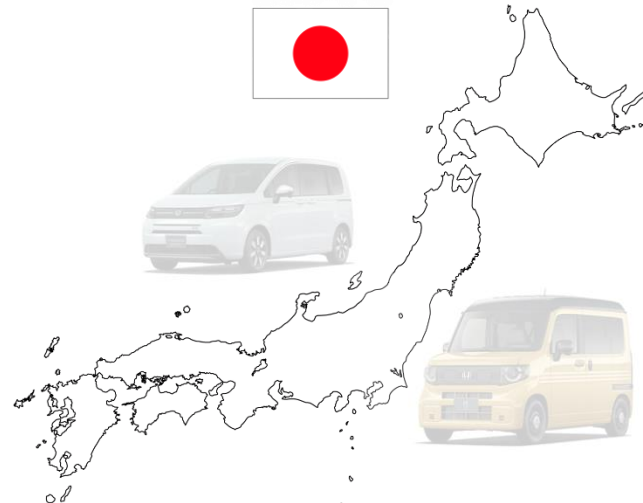
稼ぐ力

<ホンダ向けビジネスを確保しつつ、他販活動を強化>

【北米】



【日本】



【中国】



上期量産スタート 3社8車種（一部車種抜粋）

上期新規受注 ホンダ12車種 日産1車種 2025年以降順次生産開始

各地域の市場動向変化に合わせた戦略的な受注活動を展開

成長

全社
方針

稼ぐ力を向上させ持続的に成長し社会に貢献する

第16次中期経営計画
(FY26-FY28)

到達目標：
営業利益率 5%

Challenge for New

● 戦略的な成長ビジネス機会の追求

- 戦略的な営業活動による付加価値拡大
- EV商権の拡大
- 開発効率の最大化
- 新技術の確立

● サステナビリティ経営の構築

- ESG経営への取り組み強化
- カーボンニュートラルの実現へ向けた推進
- ステークホルダーからの評価向上

稼ぐ

Back to Basics

借入金の削減

● 稼ぐ力の強化

- 課題拠点へのエフテック一体サポート展開
- 競争優位性の強化による収益向上
- 従業員エンゲージメントの向上
- エフテックファミリーで活躍できる人財の育成

● 財務体質の健全化

- 14中計投資による成果の創出
- 投資の抑制
- 収支モニタリング体制の強化

成長投資

モノづくりの
本質追求

稼ぐ力

◆女性活躍推進 ～WWTプロジェクト～



2024年4月、社長直轄の組織として、
女性社員によるワーキングチーム
(Women's Working Team)
を発足させました。女性社員の活躍・推進を図る施策を
企画・検討し、女性が働きやすい環境の実現を目指し
ます。



サステナビリティ活動を推進し
更なる企業価値向上へ

◆クリーン活動



エフテックグループの各拠点にて、
環境保護を目的とした様々な
クリーン活動を実施しています。

◆フードドライブ実施



昨年11月、多くの方に
提供いただいた食料品
や日用品を埼玉県
久喜市内の子ども食堂
へ寄付しました。本年も11月28日に
フードドライブを実施予定です。

◆SAITAMA環境フェア &こどもエコフェスティバル出展



昨年に続き環境イベント
へ出展し、環境に優しい
石鹸づくりを100名の
お子様に体験いただき
ました。

◆リレー・フォー・ライフ

アメリカ対がん協会(ACS)が主催
する国際的な活動で、患者様と
そのご家族様への支援を目的と
した活動を実施しました。

2021年10月～

本庄早稲田モビリティ 協創プロジェクト 参画



車両の製作を開始

早稲田大学 小野田教授を
オブザーバーとしたプロジェクトへの参画
企業12社の一角を担い、「次世代
電動モビリティ」のシャーシシステム構造
の設計・開発をエフテック主導で推進

2021年11月～

埼玉県久喜市南栗橋駅前エリアを
舞台に、産官学連携による次世代の
街づくりプロジェクト

「BRIDGE LIFE Platform 構想」

※以下、BLP

南栗橋スマートヴィラ

街中の移動や輸送でシェアリング可能
「次世代電動モビリティ」



BLP構想へ参画する早稲田大学
小野田教授と共にプロジェクトで開発
する「次世代電動モビリティ」の社会
実装を目指す

2022年

電動モビリティ
5月「南栗橋スマートヴィラ街びらき」
にて実車両を初披露



※実証実験中



次期モデルの開発を開始
当社はシャーシシステム開発を担当

2023年～

ミニカーサイズの一人乗り電動モビリティ（試作2号車） 「HowdyUSE2.0」の製造に取り掛かり中

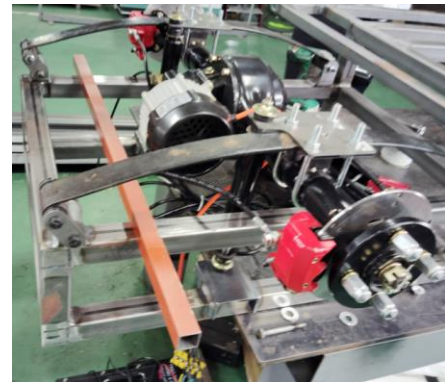
▼2号車 HowdyUSE2.0 プロダクトデザイン



▼エフテック シャーシデザイン



▼製作途中のリアシャーシ



【ミニカー】

日本における超小型自動車の規格の一つで、道路交通法において総排気量20ccを超え50cc以下又は定格出力0.25kWを超え0.6kW以下の原動機を有する普通自動車をいう。道路運送車両法においては、自動車でなく原動機付自転車として扱われる。

最終目標は、ミニカー規格で公道走行可能な車両の製作
今年中にシャーシ組立を完了させ、2025年の展示会で披露予定

得意先様からの表彰実績（2024年度上期一覧）

※敬称略



受賞対象	種別	表彰先	表彰内容
芳賀（栃木県）	安全	栃木県労働局	栃木労働局長奨励賞
日本国内	品質	NISSAN	優良品質感謝状
亀山（三重県）	効率	文部科学省	創意工夫功労者賞
FPMX（メキシコ）	品質	General Motors	Supplier quality excellence Award 2023
FPMI（フィリピン）	感謝状	Yamaha Philippines	Certificate of Appreciation for achieving Deliver Performance target
	供給	Mitsubishi Motors	Superior Delivery Performance award
ISS（インド）	品質	Bellsonica	Quality Sustenance award Cost Award
	供給	Toyota Boshoku Device India	Best Supplier for QCD
VGAC（インド）	感謝状	Suzuki Motor Gujarat private	Certificate of appreciation



2024年度上期も数多くの表彰をいただきました

ご清聴ありがとうございました

Thank you for your attention!



本資料で記述している将来予測及び業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績と記述としている将来見通しは、大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。

The future outlook and earnings forecasts in this document are made based on the information available at the moment, and they include potential risks and uncertainties.

As a result, please bear in mind that actual business performance may substantially differ from the stated future forecasts due to changes in various factors.

IR情報のお問い合わせ、取材お申し込みは

For inquiries on IR information, please contact:

株式会社エフテック 管理本部 総務部/経理部

F-TECH INC. Management Planning Division General Affairs Department/Finance and Accounting Department

代表TEL 0480-85-5211

Mail webmaster@ftech.co.jp

「エフテック」で検索

<https://www.ftech.co.jp>



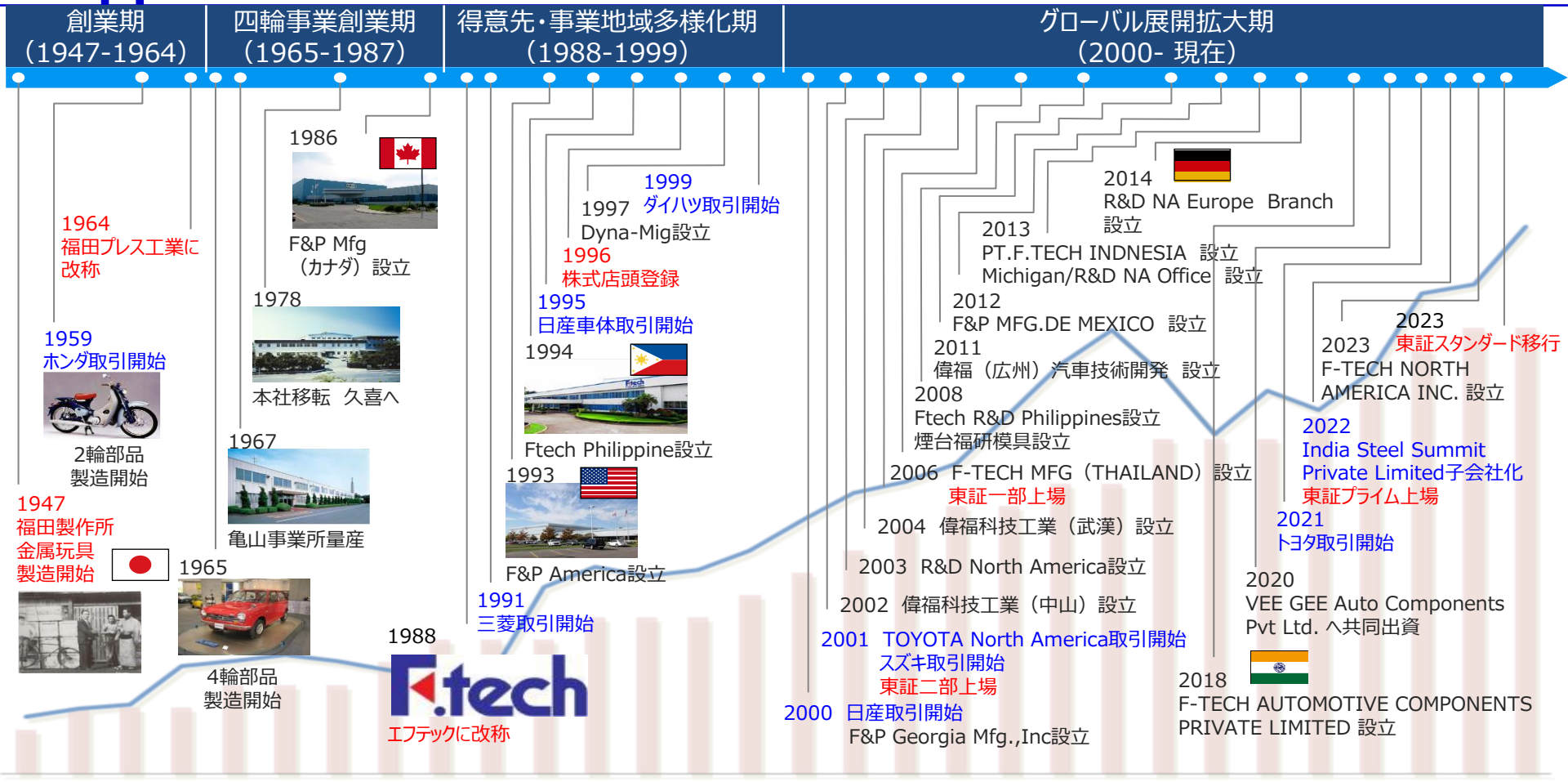
Appendix

会社名	株式会社エフテック
市場区分	東証スタンダード（7212）
資本金	67.9億円
代表者名	代表取締役社長 福田 祐一
売上高（連結）	2,987億円（2024年3月期）
従業員数（連結）	9,800人（単体：939人） <small>※単体：国内エフテックのみ（子会社、海外駐在員含まず）</small>
設立年月日	1947年7月1日
本社所在地	〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
主要取引先	本田技研工業株式会社、ゼネラルモーターズ社、トヨタ自動車株式会社、日産自動車株式会社、etc.
主要製品	自動車向け足廻りサスペンションアーム、サブフレーム、アクスルビーム、ペダルコントロール等



2024年3月末現在

Appendix ~沿革~

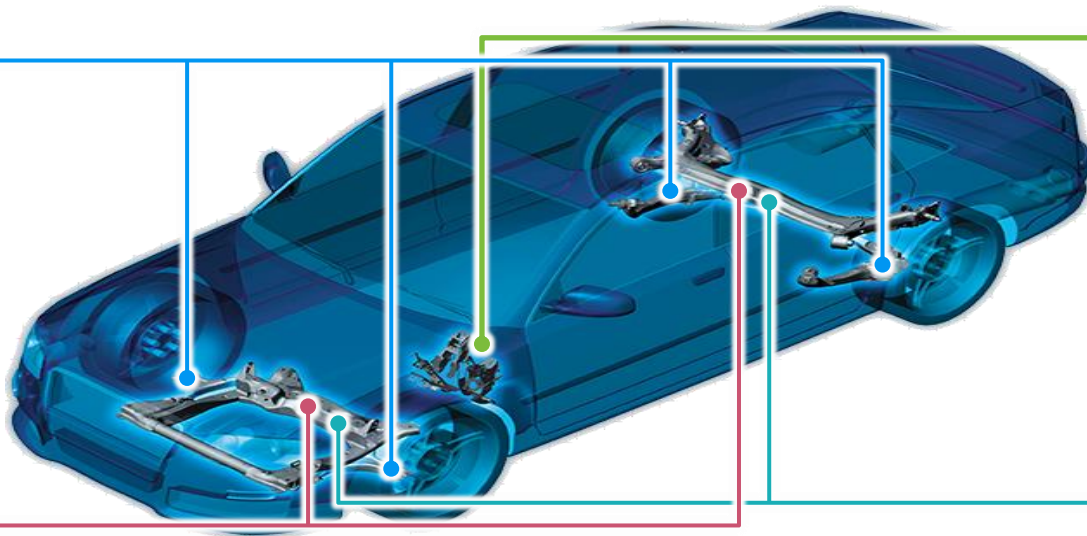




サスペンション
部品



マウント部品



コントロール部品



当社の製品は、「走る」・「曲がる」・「止まる」の基本機能を司る、重要保安部品であり、より高い操縦安定性や乗り心地、衝突時の安全性を考慮した最適仕様を提案します

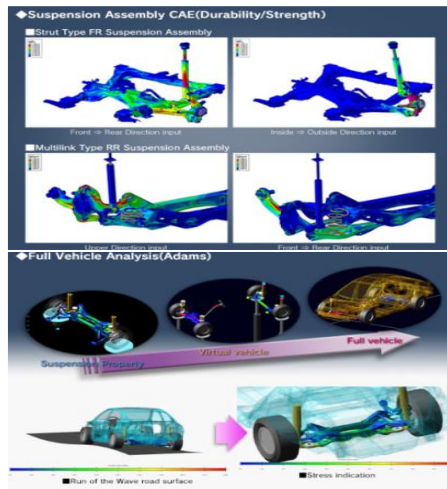
製品開発

塑性成形

接合

塗装

組立



製品の企画開発から量産まで、全工程を独自の一貫加工体制で対応、
圧倒的に競争力の高い製品をスピーディーに提供

●【国内事業所】

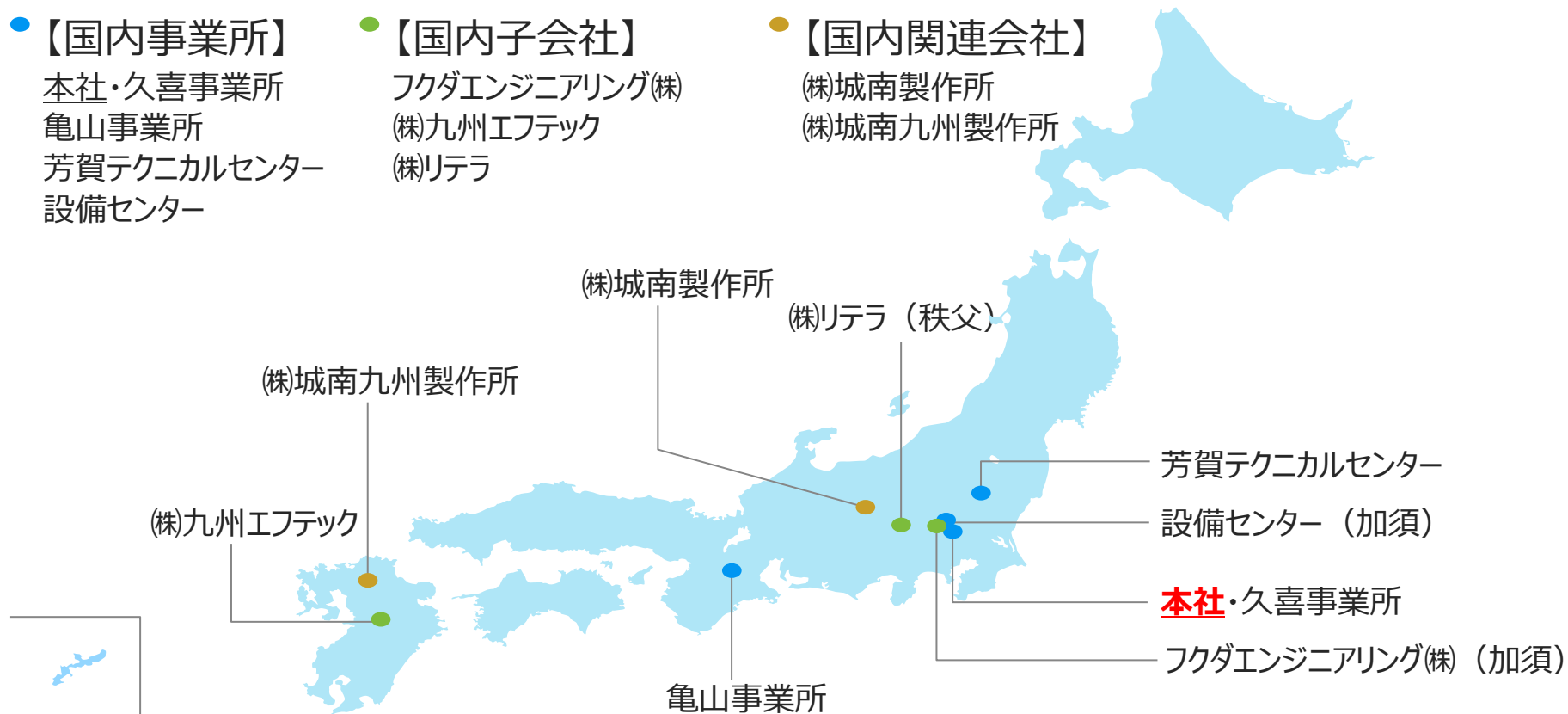
本社・久喜事業所
亀山事業所
芳賀テクニカルセンター
設備センター

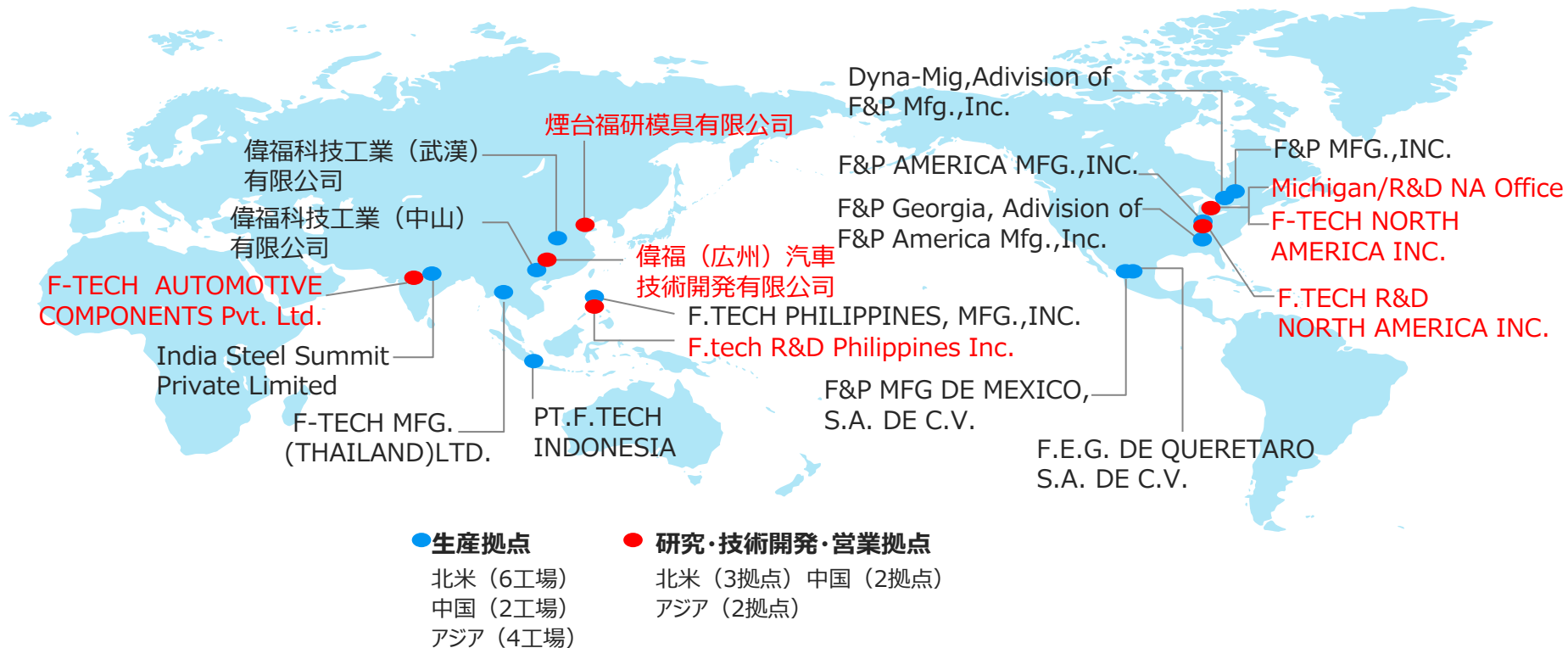
●【国内子会社】

フクダエンジニアリング(株)
(株)九州エフテック
(株)リテラ

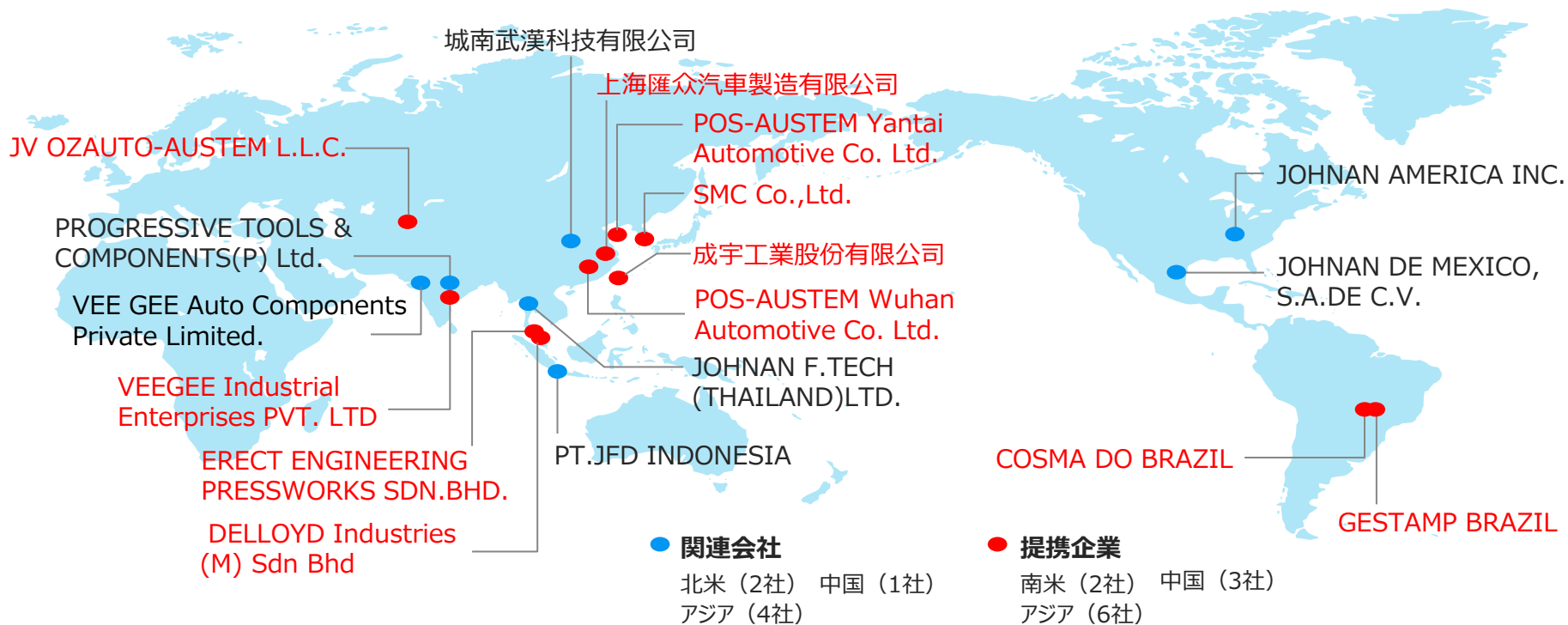
●【国内関連会社】

(株)城南製作所
(株)城南九州製作所





世界8カ国12生産拠点、7研究・技術開発・営業拠点を展開



世界6カ国・1地域での提携関係により、当社製品の世界供給体制を構築